

4 ごみとわたしたち

ごみの問題について

家庭から出たごみのうち、「燃やせるごみ」は焼却され、「燃やせないごみ」はうめ立てられ、ペットボトルなどの「資源ごみ」はリサイクルされます。しかし、ごみをうめ立てる場所はだんだん減っており、このままのペースでいくと、うめ立てる場所がなくなってしまいます。

また、ごみを燃やす場合も二酸化炭素が発生し、地球温暖化の原因になります。したがって、ごみの量を減らすことが求められています。

奈良市のごみの量

奈良市の環境清美工場へ1年間に運び込まれるごみの量

2024年度(令和6年度)
やく まん
約7万9千トン

1日に出される
ごみの量は
約220トン



これは、
たいいくかん
体育館
(25 m × 20 m × 10 m) × 79杯分

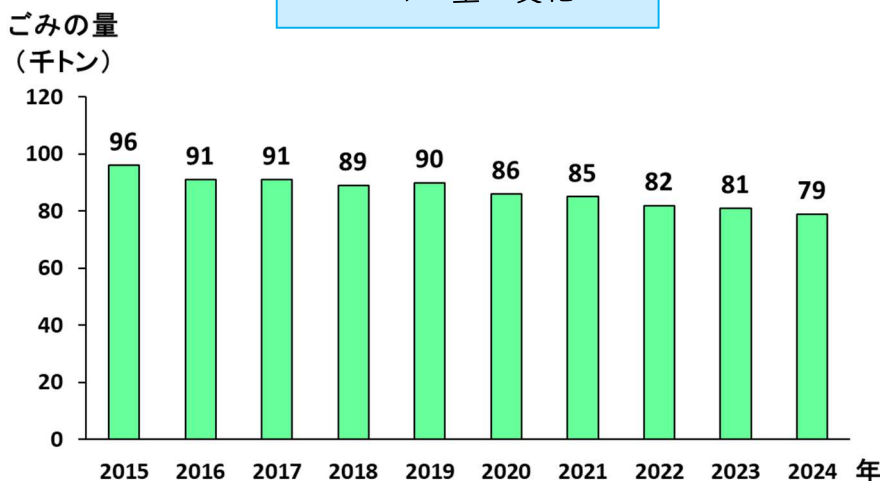


※ ごみの量 1 m³当たり 0.2トン換算

このうち、家庭から出るごみは約60%



ごみの量の変化



1人1日あたり626g
捨てているんだよ。



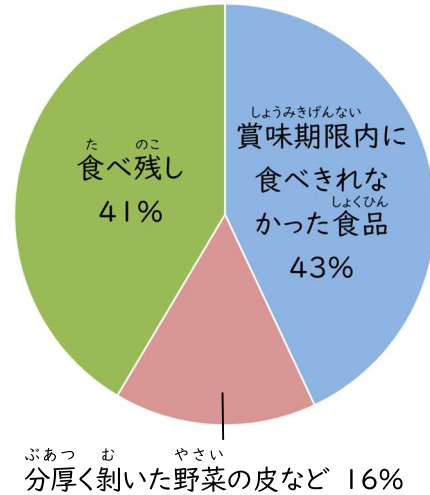
4 ごみとわたしたち

もんだい ごみ問題の例

しょくひん 食品ロス

食品ロスとは、まだ食べられるのに捨てられる食品のことです。日本における食品ロス全体量の約半分は家庭から捨てられています。残りの半分は食品製造業者や飲食店などの事業者から出ています。これは毎日一人あたりお茶碗一杯分の食品が捨てられていることになります。

家庭からの食品ロスの発生内訳



出典：「令和6年度 食品廃棄物等の発生抑制及び再生利用の促進の取組に係る実態調査（環境省）」を加工して作成

海のプラスチックごみ

近年、海岸へ漂着したり、海に漂う海洋ごみが問題となっています。

海洋ごみにはプラスチックが多くふくまれており、これらは海を汚染し、海の生き物に深刻な影響をあたえ、観光・漁業などの経済活動へも影響をあたえています。

また、プラスチックごみが小さな破片になった「マイクロプラスチック」と呼ばれる5 mm以下のプラスチックも増えており、動物が飲みこむなど、生態系へ影響をあたえるとともに、海産物を通じて人の体に取り込まれ人体に影響を与えることが心配されています。



出典：政府広報オンライン「海洋プラスチック問題に取り組もう！きれいな海と生態系を守る！「プラスチック・スマート」キャンペーン」

4 ごみとわたしたち

ごみを減らすために^{わたし}私たちが^へできること

わたしたちがごみを減らすためにできることは、ごみを減らす「リデュース(Reduce)」、くり返し使う「リユース(Reuse)」、資源として再生利用する「リサイクル(Recycle)」という3つの^{こうどう}行動が大切です。3つの^{かしら}頭文字が「R」なので、3R(スリーアール)と^よ呼ばれます。

3Rの中では、ごみを減らす「リデュース」が一番^{じゅうよう}重要であり、身近な^{みぢか}ところでは、食品ロス^{しょくひん}を減らすために「^{たのこ}食べ残しをしない」、「^{しょくざい}食材は必要^{ひつよう}なときに必要^{ひつよう}な分だけ買う」ことなどに^{とく}取り組みましょう。

リデュース(Reduce) ごみを減らす



- ・ごみになるものを^{つか}買わない、^{もら}もらわない。
- ・長く^{つか}使える^{せいひん}製品を買う、^{しゅうり}手入れや修理をしながら長く大切に^{つか}使う。
- ・マイバッグ^もを持って無駄^{むだ}な^{ほうそう}包装は^{ことわ}断る。
- ・詰め替え^つ容器^かに入った^{ようき}製品や簡易^{せいひん}包装^{かんいほうそう}の製品^{せいひん}を^{えら}選ぶ。

リユース(Reuse) ^{かえ}くり返し^{つか}使う



- ・リターナブル^{ようき}容器^{せいひん}に入った製品^{えら}を選び、^{つか}使い終わったら^おリユース^{かいしゅう}回収に出す。
- ・フリーマーケットやガレージセールなどを^{りよう}利用し、^{ふようひん}不用品の^{さいかつよう}再利用^{つと}に努める。

※リターナブル容器: 牛乳瓶のように^{かいしゅう}回収し、^{せんじよう}洗浄して^{ふたたび}再び^{しよう}使用する^{ようき}容器のことです。

リサイクル(Recycle) ^{しげん}資源として^{さいせいりよう}再生利用する



- ・^{しげん}資源^{ぶんべつ}として分別する。
- ・リサイクル^{せいひん}製品^{せっきよくてき}を^{りよう}積極的に利用する。

4 ごみとわたしたち

きゅうしょく 給食でできること

みなさんは給食を残していませんか？

奈良市では市内の小学校、中学校の給食から出る生ごみの堆肥化に取り組んでいます。

食材を作ってくれた方々への「ありがとう」の気持ちを示し、食品ロスを減らすためにも食べ残しをしない方法をみんなで考えてみましょう。



生ごみが畑の肥料に生まれ変わるよ！



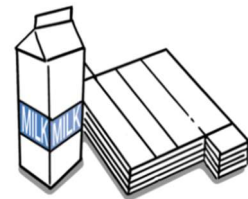
生ごみ処理機(平城中学校)



校庭の花壇にも堆肥を活用

かてい 家庭でできること

- 飲んだあとの牛乳の紙パックは洗って、切り開いてからまとめてリサイクルしましょう。
- ノートやコピー用紙、お菓子の箱といった雑紙を集めて処分することでリサイクルできます。大きさを揃えて紙ひもでしばり、廃品回収などに出しましょう。
- プラマークのついている容器・包装類はきちんと分別して出しましょう。
- ペットボトルはキャップとラベルをはずしてリサイクルしましょう。(キャップとラベルはプラスチック製容器包装へ)



奈良市では、ごみの分別方法などを掲載した「奈良市ごみ分別アプリ」を公開しています。ぜひご活用ください。

「奈良市ごみ分別アプリ」の詳細はこちら→



4 ごみとわたしたち

しょっきるい 食器類リユースイベント

しょっきるい
食器類リユースイベントは、お家でまだまだ使える食器を集めて、欲しい人に持って帰ってもらうイベントです。

ここでは「もったいない」と思った陶磁器やガラスの食器を持ってきてもらうことで、捨てられるはずだった食器たちを他のだれかにもう一度使ってもらえます。割れた食器も、道路の材料などにリサイクルされます。

みなさんの「もったいない」でごみを減らしましょう。



じゅんかんがた 循環型社会へ

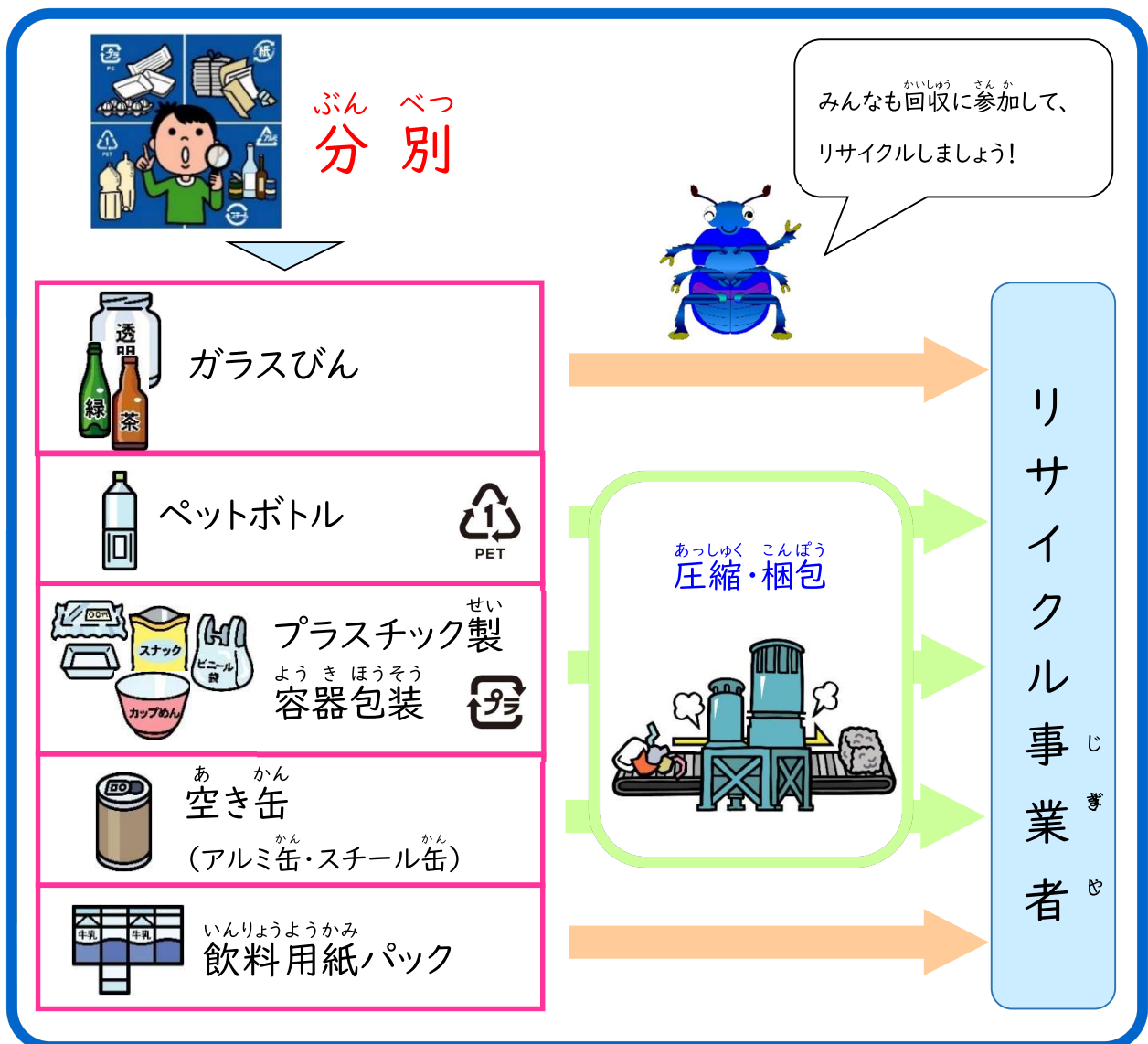
これまで、わたしたちは大量にものをつくり、大量に消費し、大量に捨てるという生活をしてきました。しかし、資源には限りがあり、このまま使っていくとなくなってしまう、ごみばかりがたまっていきます。

このような社会を見直し、これからは自然界から採取する資源をできるだけ少なくして、それを大切に使い、リサイクルを徹底して資源を再利用し、ごみを最小限に抑える必要があります。そのような社会を「循環型社会」と呼んでいます。

循環型社会をつくるためには、3Rを実践していくことが重要になります。奈良市ではガラスびんやペットボトルなどを回収し、再資源化(リサイクル)しています。

4 ごみとわたしたち

な ら し さいせい し げん
奈良市の再生資源のゆくえ



どんなものにリサイクルされる？

